2023 年度　各授業学習目標・授業目標　　科目名：2 年探究 E・アート思考

高等部教育目標
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う
探究型カリキュラム教育/学習目標
SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針　Five Principles for Learning
1. 自分事として　2. 社会/実践を通して　3.知識を大事に　4. ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを通して　5.生徒・教員が共に <ｵｰﾅｰｼｯﾌﾟ/一人称>　<PBL 型/ｱｸｼｮﾝ>　<自ら得る知識/高める関心>　<自分/他者のやりとり>　<共に探究する関係性>
上位学習目標
【知識・技能】 ・アートの理解に必要な歴史的背景やモチーフ・技法・展示方法などを適切に用いることができる ・社会課題や哲学的言説について理解し、アートと関連させて説明することができる 【思考力・判断力・表現力】 ・アートを見て感じ取ること（＝感性）を通して社会課題を多角的にクリティカルに捉え、自分の考えを構築することができる ・物事に一つの解答を求めるのではなく、複雑なまま受け入れて熟考することができる ・自分自身の価値観やモノの見方を俯瞰し、他との関係性のなかで相対的に意味づけることができる 【学びに向かう力・人間性】 ・自分自身を通して自由に世の中を捉えることで、自分の未来の可能性を開いていくことができる ・他者の表現や言説を自分の価値観に照らして、主体的に想像することができる ・作家が内省を突き詰めて作品と対峙することを追体験することで、内在する自己の有りように向き合う姿勢を身につける
下位学習目標
【知識・技能】 ①アート思考と論理思考の違いを理解し、用語として使い分けることができる。 ②対話型鑑賞や作品分析に必要な情報を集め、目的に応じて選択することができる。 ③アートにまつわる哲学的言説や時事、歴史的事実などについて自分の言葉で語ることができる。 【思考力・判断力・表現力】 ①アートとそうでないものとの違いについて鑑賞者と作品との相対性やコンテクストによる関係性を意識して考察することができる。 ②一つのアート作品についての情報を総合し、自分なりの分析を施すことができる。 ③アートプロジェクトや文化政策、パブリックアート等を通してアートに関わる社会課題について推察し見通すことができる。 【学びに向かう力・人間性】 ①より多くのアート作品や文献に触れようとすることができる。 ②一つの作品やプロジェクトに関する学びに対して時間をかけることができる。 ③自らの考えを昇華させるために、他者とアートについて語り、互いの価値観を認める姿勢を身につける。

授業日	6/6(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回

本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②③　【思考力・判断力・表現力】①②③【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・作品の分析と批評に関する調査方法や記述方法（言説の作り方）を知ることでアートに関するアカデミックスキルを身につける。 ・対話型鑑賞をファシリテートすることによって、作品への対峙の仕方と解釈の奥行きに着目する姿勢を身につける。
時間 授業内容	5 時間目 東浦先生が榎倉康二《無題》の分析を通して「もの派」における「身体性」や諸作品・作家について解説した。上田が東影智弘《浸食Ⅰ》と名和晃平《PicCell-Deer#52》の共通点として「界面性」を取り上げ、作品解釈の可能性について説明した。 6 時間目 ペアワーク「対話型鑑賞をファシリテートする」を行った。「作品とのやりとり（作品から自分が発見したこと、感じたこと）」を引き出す質問を考え、ペアの相手がその作品により深く向き合うことができるような対話を促すトレーニングとなった。また、そのことで作品解釈の幅が広がり、ファシリテーターにとっても気づきの多いワークとなった。
評価方法	・作品解説から気が付いたこと、考えさせられたことがいかに「深く」掘り下げられているか。 ・ペアワークを通して対話型鑑賞をうまく促すことができるようになったかどうか。 ワークシートと学びの記録を兼ねたプリントに生徒が記述したものを以下のルーブリックで評価した。

ルーブリック

観点① 今まで知らなかったことに気が付くことができているか。	
S	「気が付いたこと」を具体的に書けているだけではなく、その気づきがアートの問題を考えるときの鋭い視点に繋がっている。
A	「気が付いたこと」を具体的に書けているが、単に「知らなったことを知ることができた」という次元にとどまっている。
B	知らなかったことを書けているが、そのことに「気づくことができた」という新しさに欠ける。
C	知らなかったことを気が付いたという点が書けていない。
観点② 授業中に感じた疑問や感想に対してじっくりと思考することができているか。	
S	「疑問や感想」を具体的に書けているだけではなく、そこから派生する自分の関心や経験に引き付けて授業内容の外延にまで思考が及んでいる。
A	「疑問や感想」を具体的に書けているだけではなく、関連する事項と結び付けて思考することができている。
B	「疑問や感想」を具体的に書くことができているが、授業内容の伝達事項の中に納まる思考しかできていない。
C	「疑問や感想」が具体的ではない。「すごいと思う」「いいと思う」「その通りだと思う」「なるほどと思う」など。
観点③ ペアワークによって対話型鑑賞をうまく営むことができているか	
A	自分の取り上げた作品に対して鑑賞が深まる質問を考えることができ、相手の反応をうまく引き出すことができている。
B	自分の取り上げた作品に対しての質問を考えることができているが、相手の反応をうまく引き出すことができていない。
C	自分の取り上げた作品に対してうまく質問を考えることができず、相手の反応を引き出せていない。

宿題指示	プレゼンテーションに向けてさらに作品について調べてみる。